

米国 低過ぎず高過ぎない物価上昇の継続(18年1月消費者物価)

: 2018年2月15日(木)

～インフレの加速は示されず～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治

03-5221-5001

消費者物価 (Consumer Price Index)

	総合		コア		エネルギー	消費者物価						
	前月比	前年同月比	前月比	前年同月比		食料品	住宅	アパレル	運輸	医療	商品 コア	サービス コア
17/01	+0.512	(+2.5)	+0.266	(+2.27)	+3.9	+0.1	+0.3	+0.8	+2.0	+0.2	+0.3	+0.3
17/02	+0.030	(+2.7)	+0.170	(+2.22)	▲1.8	+0.3	+0.3	+0.4	▲1.0	+0.1	▲0.1	+0.3
17/03	▲0.158	(+2.4)	▲0.073	(+2.00)	▲1.8	+0.2	+0.1	▲0.5	▲0.8	+0.2	▲0.3	▲0.0
17/04	+0.152	(+2.2)	+0.088	(+1.88)	+0.8	+0.2	+0.3	▲0.2	+0.1	▲0.1	▲0.1	+0.1
17/05	▲0.072	(+1.9)	+0.082	(+1.73)	▲2.2	+0.2	+0.2	▲0.6	▲1.1	+0.0	▲0.2	+0.2
17/06	+0.050	(+1.6)	+0.143	(+1.70)	▲0.9	▲0.0	+0.2	▲0.0	▲0.3	+0.4	▲0.0	+0.2
17/07	+0.084	(+1.7)	+0.143	(+1.69)	▲0.7	+0.2	+0.1	▲0.0	▲0.3	+0.4	▲0.1	+0.2
17/08	+0.420	(+1.9)	+0.222	(+1.68)	+3.3	+0.1	+0.3	+0.0	+1.6	+0.1	▲0.1	+0.3
17/09	+0.461	(+2.2)	+0.132	(+1.69)	+4.7	+0.1	+0.2	+0.1	+2.2	▲0.0	▲0.2	+0.2
17/10	+0.078	(+2.0)	+0.214	(+1.77)	▲1.4	+0.1	+0.3	▲0.2	▲0.6	+0.2	+0.0	+0.3
17/11	+0.336	(+2.2)	+0.121	(+1.71)	+3.2	+0.0	+0.2	▲0.9	+1.5	+0.0	▲0.1	+0.2
17/12	+0.202	(+2.1)	+0.239	(+1.78)	▲0.2	+0.2	+0.3	▲0.3	+0.2	+0.3	+0.2	+0.3
18/01	+0.539	(+2.1)	+0.349	(+1.82)	+3.0	+0.2	+0.2	+1.7	+1.8	+0.4	+0.4	+0.3

(注) 括弧内は前年同月比

1月に総合が前月比 +0.539%、CPIコア が前月比+0.349% とともに加速した

18年1月の消費者物価(総合)は、前月比+0.539%(前月同+0.202%)と市場予想の前月比+0.3%を上回った。エネルギー・食品を除く消費者物価(CPIコア)が前月比+0.349(前月同+0.239%)と市場予想の同+0.2%を上回って加速したほか、エネルギーが前月比+3.0%(前月同▲0.2%)と上昇に転じ、食料品が前月比+0.2%(前月同+0.2%)と同率の上昇となった。エネルギーでは、電力・ガスが下落したものの、ガソリンが上昇に転じたうえ、燃料油が加速した。

CPIコアは、変動の大きいホテル等宿泊費などの変動により毎月加速と減速を繰り返しているが、均して基調をみると緩やかな上昇傾向を辿っている。1月のCPI統計は、アパレル関係の一時的な大幅上昇により前月比で加速したものの、前年比では低過ぎず高過ぎない上昇を維持しており、インフレの加速は確認されなかった。景気・雇用が堅調なもと、現在実施している緩やかなペースでの利上げを正当化する内容となった。

1月のCPIコアでは財価格が加速し、 サービス価格が伸び 率を維持した

CPIコアでは、商品(財)が加速したうえ、サービスの伸び率が維持された。商品(財)価格では、テレビやゲームなど娯楽商品や教育関連書籍の下落が続くなか、新車、処方箋医薬品が下落に転じたほか、処方箋外医薬品、中古車が鈍化した。アルコール飲料は横ばいとなった。一方で、下落が続いていたIT関連商品やアパレル、タバコ・歯ブラシ・化粧品などを含むその他財が上昇に転じたほか、家庭用家具・備品が加速した。また、自動車部品・設備は前月と同率の伸びとなったことで、商品コアは前月比+0.4%(前月同+0.2%)と加速した。

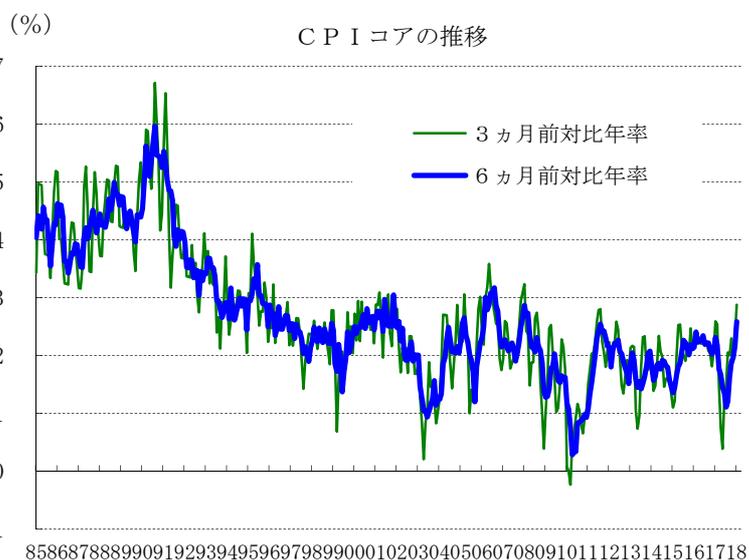
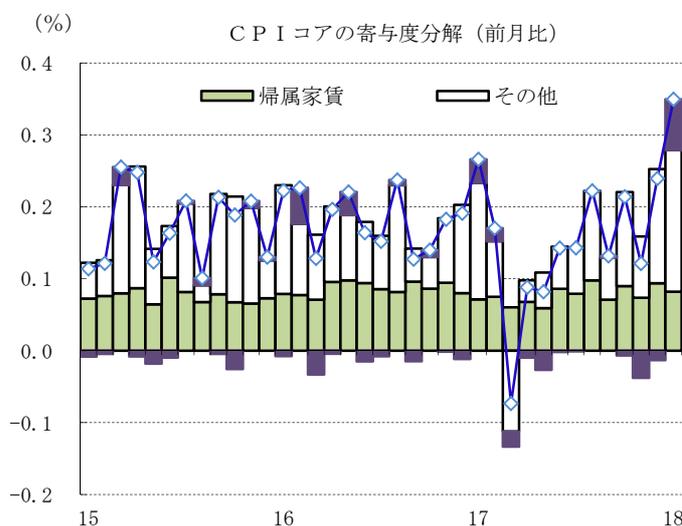
サービスに関しては、変動の大きいホテル等宿泊費が前月比▲2.5%(前月同+

0.4%)、レンタカーが同▲2.6% (同+0.1%)と減少に転じたほか、航空運賃など公共サービスが同▲0.1% (同▲0.1%)と下落を続けた。また、スポーツイベントや会員サービスなどを含む余暇サービスが前月比+0.1% (同+0.3%)、携帯電話サービスが同+0.1% (同+0.7%)と鈍化した。

一方、カー・リースが前月比+1.3% (前月同+0.5%)、医療保険などを含む医療サービスが同+0.6% (同+0.2%)、自動車保険が同+1.3% (同+0.6%)と加速した。また、賃貸料が同+0.3% (同+0.3%)、帰属家賃が同+0.3% (同+0.3%)と安定した伸びを続けたこと等を背景に、サービスコアは前月比+0.3% (前月同+0.3%)と伸び率を維持した。

CPIコアのモメンタムは安定

CPIコアのモメンタムをみると、3ヵ月前対比年率で+2.9% (前月+2.3%)、6ヵ月前対比年率で+2.6% (前月+2.2%)と加速した。しかし、携帯サービスの価格引き下げなどで下ぶれていた影響で、CPIコアの上昇モメンタムは一時的に強まっているとみられ、基調としては安定していると判断される。



前年比では1月のCPI総合が+2.1%、CPIコアは+1.8%とともに前月と同率の伸びとなった

1月の消費者物価動向を前年比でみると（以下、前年同月比）、総合が+2.1% (前月+2.1%)と市場予想の+1.9%を上回った。エネルギーが+5.5% (前月+6.9%)と低下したものの、CPIコアが+1.8% (前月+1.8%)と市場予想の+1.7%を上回って上昇したほか、食料品が+1.7% (前月+1.6%)と上昇した。

CPIコアでは、財コアが新車価格の下落幅拡大も中古車価格の下落幅縮小などを背景に▲0.7% (前月▲0.7%)と同率の下落幅となった。一方、サービスコアは帰属家賃、賃料、自動車保険など需要の強い分野の上昇が続く中で、16年に急激に上昇した医療費の低下に歯止めがかかったことや携帯サービスなど通信サービスの下落幅の縮小等を背景に全体で+2.6% (前月+2.6%)と安定した伸びを維持した。

また、より実態に近い物価動向を示す連鎖CPIコアは+1.51% (前月+1.49%)と上昇したが、加速感に乏しい。

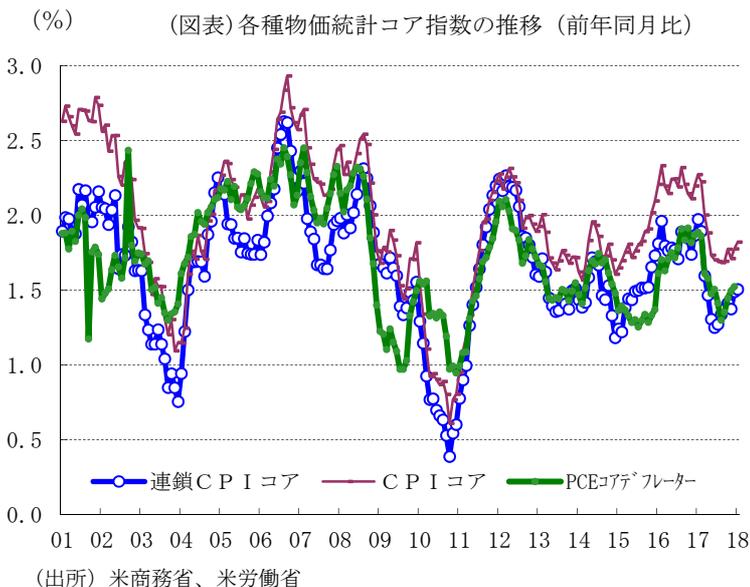
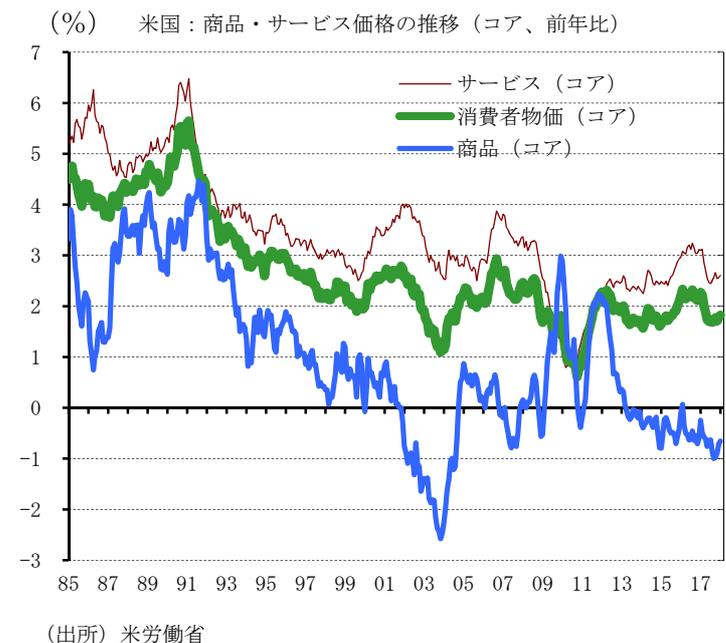
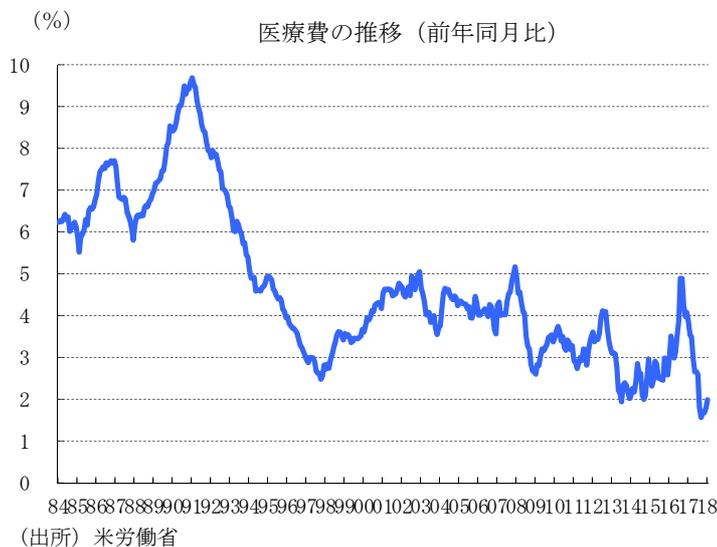
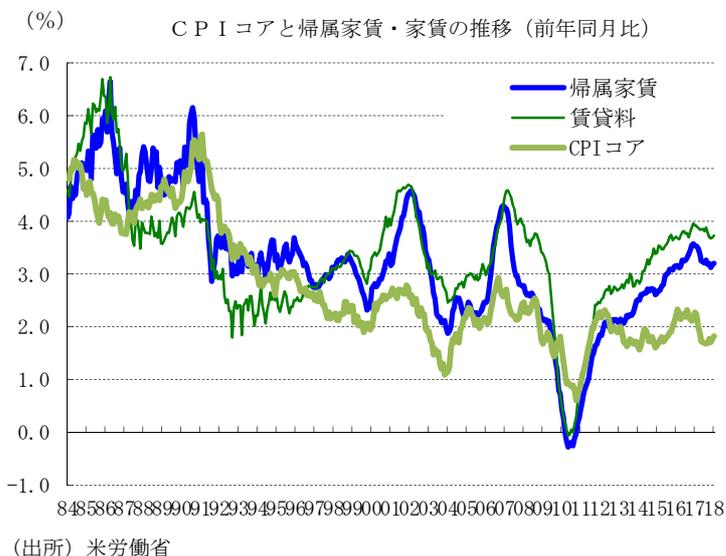
これまで公表された統計から、FRBが目標としている1月のインフレ統計を予測すると、PCEデフレーターは前年同月比+1.6% (前月同+1.7%)と低下する一方、PCEコアデフレーターは前年同月比+1.5% (前月同+1.5%)と横ばいになると予想さ

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

れる。

CPIコアは今後徐々に上昇する見込み

消費者物価（CPI）コアは、医療費の下押し圧力が弱まるため上昇を継続すると予想される。ただし、緩やかな景気拡大、激しい価格競争、技術革新などを背景に、中期的に前年比+2%程度での推移を続けると見込まれる。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。